

Pigment (vermilion inkpad)

顔料（朱肉）



(左) 辰砂 (中) 練り朱肉 (右) 漆器

古代日本において朱（辰砂、銀朱）は貴重な顔料として神秘的な意味づけがなされていたと考えられており、多くの遺跡や古墳で見ることが出来る。日本では縄文時代から辰砂の採掘が行われていた。

主な水銀鉱山に丹生鉱山（三重県）、大和水銀鉱山（現 ヤマト環境センター）、那賀郡の水井（徳島県）などがある。現在でも銀朱は、高級絵具や朱肉漆器などに使用されており、少ないながら確実な需要がある。

印鑑を押す際に必要な朱肉は現在インクを充填

したものが一般的だが、昔は銀朱に松脂やひまし脂、木ろうなどをクリーム状になるまで溶かし顔料や干し草を入れて朱肉にしていた。

野村興産での銀朱の主な出荷先は漆企業、絵具メーカーとなっている。銀朱の主成分は硫化水銀なので毒性はほぼないと考えられ、漆器を使用して健康被害報告がないこともそれを裏付けている。

これら銀朱のような製品は、伝統的な慣行又は宗教上の実践において使用される製品として、水俣条約適用除外品である。



左から順に古代朱、本朱、赤口、大和赤口、淡口、春日黄口、黄口と赤→黄に調整される。

